



九州ブロックのHIV医療体制整備

ー九州ブロックのHIV医療体制の整備に関する研究ー

研究分担者 南 留美

独立行政法人国立病院機構九州医療センター

AIDS/HIV 総合治療センター 部長

研究要旨

HIV陽性者の予後改善に伴い併存疾患をもつ患者が増加することが予想される。そのため今後は拠点病院のみならず一般医療機関や介護などの施設も含めた慢性期医療体制の構築および地域における医療連携が重要になる。今年度はオンラインもしくはハイブリッド形式で各種研修を行うとともに地域でHIV陽性者の療養を担っている医療機関を訪問し連携を強化した。また地域連携推進のために重要な「針刺し事故対応」への取り組みが各県によって異なることが分かり早急に対応していく必要がある。

HIV/AIDSを取り巻く医療体制の問題は、地域社会全体の課題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。

A. 研究目的

近年、新規HIV感染者数は全国的には減少しており、九州においても2016年をpeakに減少傾向であった。しかし新型コロナウイルス感染の影響で2020年に新規感染者数が激減したのち、2021年2022年と再度感染者数が増加に転じている。特に福岡では感染早期にHIV陽性が判明する割合が増えているがエイズ発症例も減少しておらず、HIV診療に携わる医療者の確保は今後も重要な課題である。また、近年HIV治療の進歩により患者の生命予後は改善したが、代謝性疾患や腎疾患、精神疾患など多くの合併症をもつ患者の割合が増加している。特に感染から時間が経過している薬害被害者では高齢化に伴い、今後さらに併存疾患をもつ患者が増加することが予想される。そのためHIV診療に携わる専門の医療スタッフだけではなく多くの一般専門医療機関や介護などの施設も含めた慢性期医療体制の構築、地域における医療連携の必要性がより一層強まっている。

本研究はこのような地方におけるエイズ医療の問題点の把握と地方におけるエイズ医療向上を目指して行なった。

B. 研究方法

1. HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及
HIV診療における技術の習得および向上のため、

例年、九州ブロック内の希望者に対しHIV/AIDS職員研修を行っている。昨年は新型コロナウイルス蔓延防止のために行うことが出来なかったが、2021年、2022年度はオンラインにて研修を行った。またHIV感染症における最新情報や知見の共有のための研修を拠点病院のHIV診療担当者を対象にオンラインで行った。

2. 地域医療連携

長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、研修を行なった。医療機関、訪問看護・介護、施設等において、HIV陽性者の受入が進まない要因に、施設内では事故時の対応ができない、2時間以内に拠点病院を受診することができない。といった内容が挙げられている予防薬に対する九州内各県の取り組み状況を確認した。

3. 薬害被害者への対応

九州ブロックは都市部と違い、薬害被害者は地方で孤立していることが多い。また血友病性関節症やC型肝炎、生活習慣病などの合併症や生活面での問題点も個々に異なるため個別の救済が必要である。そのため九州医療センターAIDS/HIV総合治療センター内の被害者救済（長期療養）支援チームを中心により良い医療連携、療養環境の整備のための活動を行った。

(倫理面への配慮)

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

C. 研究結果

1. HIV 診療に従事する人員の確保・専門知識の普及
今年度はオンラインを中心に以下の研修会・シンポジウムを開催した。

(1) 第 41 回九州ブロックエイズ拠点病院研修会(ハイブリッド研修)

■日時：2022 年 9 月 30 日(金) 14:00~15:30

■場所：九州医療センター 講堂

■出席者：講師 2 名 参加者：105 名

■テーマ：HIV 感染症の最新情報、PrEP と性感染症

(2) 九州ブロックエイズ診療ネットワーク会議
(ハイブリッド研修)

■日時：2022 年 10 月 7 日(金) 10 月 19 日(水)
10 月 21 日(金) 11 月 4 日(金) 11 月 11 日(金)

■場所：九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長室

■出席者：九州ブロック内中核拠点病院の医師・看護師・CO・MSW・薬剤師・行政関係者

職種ごとに集まり各地域における問題点について検討を行った。

(3) HIV ネットワーク 第 48 回シンポジウム
(ハイブリッド)

■日時：2023 年 1 月 20 日(金) 18:00~19:30

■場所：九州医療センター 研修室

■出席者：講師 2 名 参加者：47 名

■テーマ：郵送検査について

(4) 第 8 回九州 HIV 看護研修会・第 5 回ソーシャルワーク研修会(ハイブリッド)

■日時：2023 年 2 月 18 日(土) 9:30~12:10

■場所：佐賀大学医学部附属病院 臨床大講堂

■参加者：講師 2 名、

■テーマ：HIV 感染症の最新情報、HAND に対するサポート体制の構築

(5) 第 19 回九州ブロック HIV カウンセラー連絡会議

■日時：2023 年 3 月 17 日(金) 13:30~15:30

■場所：九州医療センター ラウンジ

■参加者：講師 3 名、

(6) HIV/AIDS 研修(オンデマンド/オンライン)

●看護師コース 6 月 17 日(参加者 20 名)、10 月 28 日(参加者 10 名)

●薬剤師コース 6 月 17 日(参加者 15 名)、10 月 28 日(参加者 7 名)

●カウンセラーコース 6 月 24 日(参加者 6 名)

●MSW コース 7 月 1 日(参加者 4 名)

●医師コース 6 月 24 日(参加者 7 名)

●栄養士コース 7 月 1 日(参加者 4 名)

オンデマンドにて研修動画を配信。職種ごとに定められた動画を聴講したのち、各職種がオンラインにて集まり質疑応答やディスカッションを行った。

2. 地域医療連携

(1) 地域連携のための研修：

今年度は受け入れ施設の職員を対象とした出前研修を 8 施設で行った。新型コロナウイルス感染症蔓延を鑑み、9 施設中 6 施設はオンラインで研修を行った。福岡県 HIV/AIDS 出前研修(オンライン・対面)

■日時：2022 年 7 月 1 日(金) 19:30~21:00
(オンライン・対面)

■依頼元：久留米三井薬剤師会

■出席者：講師 2 名、参加者 84 名

■日時：2022 年 7 月 7 日(水) 17:00~18:00
(オンライン)

■依頼元：ケアワーク九州博多南第 3 ステーション、ケアワーク九州姪浜第 2 ステーション、ケアワーク九州ケアサービス

■出席者：講師 2 名、参加者 10 名

■日時：2022 年 7 月 25 日(月) 13:30~14:30
(オンライン)

■依頼元：就労継続支援 B 型事業所 the LAMP

■出席者：講師 1 名、参加者 2 名

■日時：2022 年 7 月 26 日(火) 13:00~14:00
(オンライン)

■依頼元：社会福祉法人筑後市社会福祉協議会
筑後市ケアプランサービス

八女津姫式番館

■出席者：講師 2 名、参加者 17 名

■日時：2022年8月17日（水）12：30～13：30
（オンライン）

■依頼元：訪問看護ステーション き・ら・ら

■出席者：講師2名、参加者 4名

■日時：2022年8月18日（木）15：00～16：00
（対面）

■場所：カレン訪問看護ステーション

■出席者：講師2名、参加者 7名

■日時：2022年8月23日（火）20：00～21：00
（対面）

■場所：久留米市歯科医師会2F 大ホール

■出席者：講師2名、参加者 36名

■日時：2022年11月30日（金）18：40～20：00
（オンライン）

■場所：福岡県精神科病院協会

■出席者：講師2名、参加者 51名

■日時：2022年12月9日（金）13：15～14：15
（オンライン）

■場所：ケアマネットくらて

■出席者：講師2名、参加者 22名

(2) 地域臨床カンファレンス：

拠点病院間の情報交換や困難症例に対する相談のため多職種が参加してカンファレンスを行った。今年度は琉球大学とオンラインで開催した。

(3) 第1回福岡県 HIV サポーター連携カンファレンス
地域におけるHIV陽性者を支援している病院や施設同士の交流やネットワーク構築を目的として開催。

■日時：2023年1月28日（土）10：00～12：00

■場所：九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長室

■参加者：講師：3名 参加者：22名

(4) 針刺し事後時の対応

九州医療センターにて行ったインターネット上の調査では、行政が実施主体で予防薬を整備しているのは35都道府県、行政が予防薬整備の実施主体にはなっていないが、マニュアルを整備し、行政HPで公開しているのは3都道府県、情報にアクセスで

きないのは9都道府県（うち九州5県）であった。九州各県に針刺し事故時の対応について直接確認した。県主体で県内の病院に予防薬を配置し、マニュアルを整備している件は沖縄、鹿児島、熊本の3件であった。県内の拠点病院以外の協力病院にも予防薬を配置している県は大分県、長崎県の2県、宮崎県、佐賀県、福岡県は現時点では拠点病院でのみの対応であった。宮崎県、福岡県は今後、拠点病院以外の2病院にも予防薬配置を予定、福岡県はマニュアル作成途中であった。

(5) その他

九州医療センターとの地域連携協力病院8カ所を医師、MSWで訪問しHIV感染症における最新情報や課題についての情報共有を行った。またリーフレットを作成し、HIV感染症に対する情報発信を行った。

3. 薬害被害者への対応

(1) 精密検査入院パス

九州ブロック内に居住する薬害被害者を対象に、短期間九州医療センターに入院して全身の精査を行う精密検査入院パスを行っている。精密検査を行った上で、治療方針の決定、療養環境の整備等を行い、個別救済に結びつけている。当院における精密検査入院における実施項目は、採血、関節レントゲン、心電図、腹部エコー、胸部CT、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、頭部MRI、頸動脈エコー、甲状腺エコー、血圧脈波（ABI、CAVI）、血管内皮機能検査（FMD）、整形外科受診、認知機能検査、栄養指導、リハビリ導入であるが、期間や実施項目は被害者の希望や合併疾患の状況によって調整している。2022年度の利用者は7名であった。悪性腫瘍は新たに見つかっていないが、近年の傾向として血管系の合併症が増えている。今年度までのデータでは頸動脈肥厚（頸動脈エコー）8名中4名、血圧脈波の異常（CAVI>8）は11名中8名、FMD<5%は12名中3名で認められた。

(2) リハビリ対応

九州医療センターでは薬害被害者を対象に外来にてリハビリを施行している。現在4名が利用している。その他、訪問リハビリを2名が使用、1名継続中である。リハビリや運動の評価に関しては、個別もしくは集団リハビリ検診にて行っている。今年は3年ぶりに対面での集団リハビリ検診を行った。

- 日時：2022年11月26日（土）10：00～14：00
- 場所：九州医療センター第一会議室・リハビリテーション室
- 参加者：スタッフ・リハビリ関係者28名、患者7名 患者家族1名

D. 考察

全国的に新規のHIV/AIDS患者が減少傾向にあり、九州ブロックにおいても減少傾向にあったが、2020年以降再び増加傾向にある。また、HIV感染症の予後改善とともに長期療養者が増加しており、HIV/AIDS診療を担う医療者の確保および医療・介護施設の拡充が課題となっている。医療者においては長年HIV診療に携わってきた医師の退職に伴い、九州内の各県でも今後世代交代が起こっていくと考えられる。今年度のHIV/AIDS職員研修においても今後のHIV診療を担っていく自覚を持って受講した参加者もいた。しかし今年度も新型コロナウイルス感染蔓延の影響のため、研修はオンラインが中心であった。オンラインによる利便性のため参加者は多く知識を広く普及するためには良かったが、実地における研修でしか習得できないものもあり、来年度以降、復活できることを期待する。

長期療養を担う医療施設との連携強化のため、今年度は今まで連携のあった病院のうち8病院を直接訪問した。各施設ともHIV感染症に関する最新の知見に対して情報共有を希望された。またHIV陽性者の支援に関して医療施設が抱えている課題についてのディスカッションもでき今後の連携強化に繋がったと考えられた。しかし、現時点ではHIV陽性者の受け入れ施設は限られており、このままでは限られた施設に負担がかかる可能性がある。今後、受け入れ施設拡充のための方策を「非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究」班の方で検討中である。なお、受け入れ施設拡充のためには「針刺し事故時の対応」を行政主体で定めておく必要がある。九州内で取り組みが遅れている県もあり、早急に対応が必要である。

血友病患者は心血管系の合併症の頻度が低いと報告されている一方、HIV感染合併の血友病患者（薬害被害者）では心血管系の合併症のリスクが高かったと報告されている（Ran Nagai, et al. Global Health & Medicine. 2020）。九州医療センターで行った動脈硬化性病変の評価結果からも半数近くの被害者が動脈硬化性病変を疑う所見を有しており今

後、冠動脈病変の評価が必要である。また、緊急時の対応についても検討が必要である。特に拠点病院から離れた遠方で生活している薬害被害者については、緊急時の搬送先も含め個別に決めておく必要がある。

HIV陽性者の医療体制は、予防啓発も含め社会全体の問題であり、行政・保健所と拠点病院や当事者支援団体、地域支援者などの関係機関が連携・協働していく必要がある。2020年以降、新型コロナウイルス感染蔓延の影響を受け、行政との連携がとりにくい状況であったが、今後は、拠点病院と行政が協働し、HIV陽性者が安心して療養できる地域包括ケアシステムの早期実現が望まれる。

E. 結論

HIV/AIDS患者の新規発生数の増加およびHIV陽性者の高齢化に伴う長期療養HIV陽性者の増加は、次世代を担うHIV診療従事者のみならず、地域社会全体の問題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。特に多くの合併症を抱えた薬害被害者に対しては個別に評価し個々に応じて対応していく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) The association of HIV-1 subtypes and transmission clustering with late diagnosis: the first nationwide study in Japan. Machiko Otani, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Mayumi Imahashi, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiur³, Tetsuro Matano, Tadashi Kikuch, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network, AIDS 2022, 7:29-8. Montreal, Canada (web)
- 2) Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: 12-month results of the retrospective patients in the BICSTaR Japan study. Tomoyuki Endo, Mayumi Imahashi, Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Rumi Minami,

- Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Yoshiyuki Yokomaku, Shinichi Oka. Asia-Pacific AIDS & Co-Infections Conference (APACC) 2022、2022年6月16-18日、(web)
- 3) Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: The 2nd analysis of 12-month results of the BICSTaR Japan study. Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Yoshiyuki Yokomaku, Rumi Minami, Tomoyuki Endo, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Shinichi Oka. Korean AIDS Society 2022、2022年11月18日、韓国（ソウル）(web)
 - 4) 大都市圏型のHIV診療～センター病院のHIV診療現場から. 南留美. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 2022/11/18 2022/11/18-11/20
 - 5) HIV感染者の早期発見に関するアンケート調査. 高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美、山本政弘. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
 - 6) 当院における2剤療法の臨床的検討. 南留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、山本政弘. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
 - 7) 当院におけるHIV関連リンパ腫27例の後方視的検討. 中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美、山本政弘. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
 - 8) タブレット版HANDスクリーニング検査の妥当性と有用性. 坂本麻衣子、中尾綾、小山璃久、鶴味詢大、山之内純、中田浩智、松下修三、南留美、山口武彦. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
 - 9) 2021年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向. 菊地正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、湯永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、森治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、山本政弘、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦互. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
 - 10) 実臨床でのビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド (B/F/TAF) の有効性、安全性及び忍容性の評価；BICSTaR Japanの12ヵ月解析結果（2回目）. 渡邊大、照屋勝治、横幕能行、南留美、遠藤知之、渡邊泰子、Andrea Marongiu、谷川哲也、Marion Heinzkill、白阪琢磨、岡慎一. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
 - 11) ビクテグラビル開始に伴う精神神経系有害事象の発生状況調査とPOMSを用いた検討. 藤田清香、松永真実、合原嘉寿、大橋邦央、花田聖典、橋本雅司、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南留美. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会（ポスター） 2022/11/18-11/20
 - 12) インテグラーゼ阻害剤における精神神経系副作用の発現状況とPOMSによる調査. 松永真実、合原嘉寿、大橋邦央、花田聖典、橋本雅司、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南留美. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会（ポスター） 2022/11/18-11/20
- H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
特記事項なし